

平成27年度 学校評価シート(専攻科)

学校名: 和歌山県立熊野高等学校 学校長名: 庄田 卓爾

目指す学校像	生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校
育てたい生徒像	幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒

本年度の重点目標	1 授業の充実と確かな学力の育成を図る。
	2 キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。
	3 地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上も図る。
	4 倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。

達成度	A 十分に達成した (80%以上)
	B 概ね達成した (60%以上)
	C あまり十分でない (40%以上)
	D 不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善の方策の公表の方法
評議会を実施し、インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載する。

(注) 1 重点目標は3~4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価 (3月11日 現在)		
重点目標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標			
1	授業は落ち着いた雰囲気の中で展開されている。生徒たちも真剣に取り組んでいるが、積極性、主体性に欠ける部分が見受けられる。また、自分なりの学習方法を身につけ計画的に学習を進めている生徒が少ない。そのため、自分で目的を持ち自学自習の習慣が確立ができるようきめ細かい個別指導と教員の授業力向上が必要である。	教員が授業研究等を行うことで授業力向上をはかっている。 生徒の主体性向上のための方策がとられている。 専門職者として学力向上と技術を獲得し自分の目的を目指す学習を意欲的に行うことができる。	文部科学省研究指定校を受け、生徒の主体性向上のための授業力向上を図る。 評価基準に則った学習指導を実施し、学力定着を実現する補習の充実を組織的に取り組む。 生徒各自の自己実現にむけての情報提供と共に個別丁寧な指導を行う。	研究・公開授業を実施する。研究協議を実施した際には、内容を共有できるように情報提供の機会を確保する。 授業や夏休みの補習、放課後練習に参加率を100%にする。模擬試験の偏差値の向上と国家試験全員合格を目指す。 試験前や長期休暇中補習を実施。全員が参加、学習習熟度に差がみられ低学力者が一部固定化している。 4月当初に実施した2者面談や進路アンケートを共有し、指導に活かした。	B	授業力向上の取組を継続し、さらに実効性のあるものとするため研究工夫する。 補習の実施は、継続する。補習内容は、考査対策だけではなく、教材の工夫や方法を検討する。 学年団と進路担当者の情報共有はできたが、生徒の就職への取り組みが例年より遅い。進路実現への明確なスケジュールも吟味する必要がある。	
2	卒業生33名のうち国家試験合格者32名出すことができた。32名の中、進学者1名と就職者31名と進路実現できた。今年度も引き続き多くの卒業生を出すことを目標に国家試験合格を目指して努力していきたい。	生徒の進路実現に向けての取り組みがされ、生徒自身が自ら考え行動し、決定する指導ができています。 将来像の看護師像をイメージでき、自分に合った進路先を決定できている。	「進路の手引き」の活用、進路講話、卒業生の体験談講話を実施しキャリア教育を充実する。 適正・能力を把握し、生徒各自の自己実現にむけての指導を行う。 「進路だより」「保護者会」や面談等、様々な機会を捉えて保護者に向けた進路情報を発信する。	校内ガイダンスや卒業生の講話の効果的な実施。 進路アンケートを実施し、一人一人の進路実現に向けた丁寧な指導を行い就職・進学先が決定する。 面談や「進路だより」など進路情報を触れる機会を設ける。	B	卒業生や高校課程の生徒との「ようこそ先輩」を実施。校内ガイダンスを1回実施した。 アンケートを実施し、生徒の希望に沿った、進路実現に向けたインターンシップを行い希望病院や進学先を決定できた。 4月当初に実施する懇親会や3者面談を実施。懇親会で進路状況の情報を提供の実施。 生徒の希望する進路先を決定するのに時間がかかる。そのため、早からの進路ガイダンスを行うと共に相談も行いやすいように環境を工夫する。 懇親会での情報提供は行ったが、保護者向けの情報提供の回数が少ないため、年に3回程度増やす必要がある。	
3	専攻科生になり社会人となる意識を育てるために、授業や自治会活動を通して地域・社会の一員としての意識を持ち、実習現場で実際の働きや地域の方と触れ合う機会を多くする必要がある。	授業や実習の中で、地域の特徴の中で生活している人々に対する知識を深め、防災訓練を通して自らを守ることと共に地域でどのような行動をとるべきか理解できている。 自治会活動を通して自己の役割を理解し、積極的に学校活動に参加する。	教科の授業や実習を通しリスクマネジメント能力の育成や実際の活動の状況に興味を促す。 防災訓練の参加や実習施設の災害時の対応などを学び、様々な状況においての地域の活動や緊急時の実際の対応が理解できる。 自治会活動やHR運営、学校行事等、自主活動へ積極的に参加させる。	公衆衛生分野において教科、実習を含め再試験該当者がでない。 地域の特性や活動に興味を持ち、災害訓練等のボランティア活動に参加する。 様々な場面で役割を担えることができ、各行事に積極的に参加する態度を育成する。	B	教科や実習の取り組みは、このまま継続していき27年度を超える結果に繋がられるよう工夫改善を図る。 行事では、自治会役員主体で組織的に取り組み、災害ボランティアでは、意欲的に参加する。このまま継続して27年度を超える活躍を期待すると共に支援・指導を行っている。	
4	生命の尊厳について深く認識することができ、真摯な態度を確立できる。挨拶、マナー指導の充実をはかり、生徒としての自覚・集団規律を持つことができる。	授業、臨地実習を通して看護者としての自覚と適正を養い生命の尊厳についての学習を深める。挨拶、マナー指導の充実を行い、基本的な生活習慣の確立ができる。	授業、臨地実習を通して、医療現場における生命の尊厳にかかわる問題に目を向け、様々な問題に立ち向かう強い精神と看護者を目指す者としての自覚を育む。 社会人を目指すものとして、TPOに合わせた態度服装が身に付くことができる。	授業や臨地実習では、知り得た個人情報の遵守を徹底する。実習においては、誠実で真摯な態度を育成するため、自分の行動を振り返る機会を与える。 身だしなみなどの生活指導が減少する。	B	実習での情報管理と重要性については、生徒全員が理解し遵守することができた。授業の課題において、数名紛失等がみられたが日々の管理能力が影響することを振り返ることができた。 社会人として自己の行動や言動の責任が自覚出来るよう働きかける。実習だけではなく、授業や日々の活動においても情報に対する管理能力を身につけることが出来るよう指導の徹底をはかる。 社会人として自ら律し責任ある行動ができることの意味と必要性を理解し、基本的な生活習慣の定着への継続した指導が必要である。	

学校関係者評価	
平成 28 年 3 月 17 日 実施	学校関係者からの意見・要望・評価等
第1回専攻科評議会の席で、評議員の皆さんから次のような感想、意見が寄せられた。	
授業を見学して生徒の必死さ・意欲を感じた。大学編入の希望状況から見ても、生徒の道を広げていくために多くの情報を生徒に伝えて欲しい。	
学校主体の合同説明会などに新人を連れて参加することがある。卒業生との交流が大切。同窓会の運営を考えてみてはどうか。	
大学では、職種別に卒業生を呼び、学生に話してもらった後、フリートーキングで学生が聞きたい職種の先輩に直接聞きに行っている。	
資格を取ることを目的とする生徒が増えてきている。大学としては倫理意識を強化していく必要性を感じている。また、学生に看護師の魅力を伝えていく。 職場環境を整えていくことが大切。魅力ある職場作りをしていかなければいけない。大学病院と大学教員でユニフィケーションを行っている。実習施設と学校との連携が重要である。	
これをうけて、本校からは次のような答弁がなされた。	
倫理教育に関して、看護学概論等で事例を通して考える機会を与えているが、自信のない生徒、自分自身を好きでない生徒に進路決定への意欲の低さが伺えるので、生徒の自主性・自己肯定感を高める取り組みを強めていく。	
また、研究指定校の取り組みを行うことで、授業内だけでなく日々の学校生活の中でも生徒が主体的に行動できるようになったと感じているので、今後も専攻科の生徒が自ら考え行動し、自分の道を切り開いていけるよう指導していきたい。	